



昭和34年4月18日制定

あさひ

学校便り 7月号

平成27年6月30日

横浜市立旭小学校

心の窓を開く

副校長 三枝 秀明

副校長の仕事として、毎朝校舎内外の点検を行っています。閉めきった朝の校舎の中は、朝日に暖められた空気に様々なにおいが混じり、「もわっ」とした空気に包まれています。そこで、窓を開けて回るのがですが、窓を開けた瞬間がとても気持ちが良いです。風がある時には、校舎の中を心地よい風が吹き抜けていきます。風がない時にも、内と外とを隔てていた窓を開けることで、空気がつながったことが感じられます。

この「つながった」時の解放感と安心感ともいえるような感覚を、どこかで感じたことがあると思っていました。そう、気持ちが「つながった」時の感覚に似ているのです。

その場の人の様子を「雰囲気」といいますし、人の気持ちを考えた言動をとることを「空気を読む」といいます。空気の「気」も気持ちの「気」も、形はないけれど確かにそこにあるものとして表しているようです。「心の窓を開く」という言葉を使った人も、このような感覚を感じた人なのだと思います。

5年生が宿泊体験学習で行った「国立中央青少年交流の家」では、全利用者が集まる「ゆうべの集い」と「朝の集い」が行われます。そこでは、各利用団体の自己紹介と簡単な交流ゲームが行われます。それぞれの団体がそれぞれのプログラムで活動しますが、この「集い」をきっかけに相手のことを知り、お互いの活動に関心をもち、配慮し合うことができるようになります。

宿泊体験学習3日目の昼食時には、食堂の入り口でこんな会話がありました。

「こんにちは。私たちは横浜市立旭小学校の5年生です。あなたたちはどこの学校ですか？」

「私たちは、千葉県の松戸市立旭小学校です。」

「え、旭小学校。同じ名前の学校と一緒になるなんて、すごい偶然！」

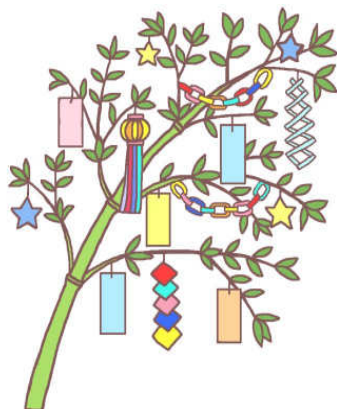
これは、「集い」でお互いの「心の窓」を開いた経験があったからこそできた会話でしょう。

さて、私たちは日常生活の中でどのように「心の窓」を開いているのでしょうか。

まず、同じ学校の人、同じ職場の人、同じ地域に住む人、いつもの時間にいつもの場所で会う人、というように相手を意識していることから始まります。そして、次が挨拶です。「おはようございます」「今日は」と挨拶をした時、「おはようございます」「今日は」と挨拶が返ってくれば、相手も自分を認めてくれたということになります。この挨拶が返ってきた時に感じる安心感や解放感こそが、窓を開け空気がつながった時の爽やかな感覚と同じだと思います。

何でも話せる人間関係を「風通しが良い」と表現することがあります。「心の窓」を開き、「風通しの良い」関係を築こうとする意識は誰もがもっていることでしょう。心痛む事件が多く報道される中で無防備ではいられませんが、心の窓を開き良い人間関係が築けるようにしていきたいものです。

7月の取組目標



生活目標

暑さに負けずに元気に過ごそう

保健目標

暑さに負けずに元気に過ごそう

清掃目標

傘立て、くつばこをきれいにしよう

給食目標

好き嫌いなく食べよう